

国際文化学部鹿毛敏夫教授の

『胡宗憲～倭寇退治 日本と協力～』が掲載

●大分合同新聞 2018年4月21日(土)

大友時代を 生きた人々

鹿毛 敏夫

文化

胡宗憲は、中国明代の16世紀半ばに活躍した「総督」です。正徳7(1512)年に徽州(安徽省黄山市)に生まれ、嘉靖17(38)年に科挙試験に合格して進士。同33(54)年には浙江の巡按御史という、皇帝名代として地方監察をする重要官職に就任します。

嘉靖30年代(50年代)は、を引く胡宗憲の雄姿が、戦役視察に訪れた尚書(中央官僚)の趙文華と並んで描かれています。馬上並進する2人の視線の先には、伝令役の兵士がひざまずいて事・行政活動も、倭寇の取り

胡宗憲

り締めりと鎮庄に主眼が置かれます。

東京大学史料編纂所蔵『倭寇図巻』や中国国家博物館蔵『抗倭図巻』など一連の倭寇絵巻は、この総督

胡宗憲による倭寇退治の戦功図が徐々に主題を変えながら流布したものと考えられます。

特に『抗倭図巻』には、

倭寇退治 日本と協力

手に縛られた3人の捕虜が、団のボスをつまみ、懐柔するのみでなく、彼らと結託する日本側密貿易者の取り締まりにも向かいます。

倭寇集団の中国側頭目徐海の弟と一味です。

胡宗憲の倭寇対策は、徐海や王直ら中国側密貿易集



捕虜倭寇の引見へと馬を進める胡宗憲(左から2人目)と趙文華(左端)＝中国国家博物館蔵「抗倭図巻」

応対にあたった胡宗憲は、国家外交をつかさどる礼部への説明で次のように主張しています。

「豊後(大友義鎮)からの使者は勘合(通文許可証)を持たず、山口(大内義長)は『日本国王』名称ではありません。ただし、義長らは『被擄人口』(倭寇に捕らわれた中国人)をこの船で送還してきました。よって、この使者を厚くもてなして日本に帰し、義鎮と義長を介して日本国王が法で倭寇を取り締まるよう伝命してはどうでしょう」(『明世宗実録』)。

総督胡宗憲にとって、西日本の大友氏や大内氏ら有力大名が、明朝最大の外患である「倭寇」を平定するための重要な日本側パートナーと認識されていたことが分かる記録です。(名古屋学院大学国際文化学部教授) 毎月1回掲載